

とよなか

ゆめ・まち・ひと

リレーエッセー

豊中と聞くだけで、
今もあたたかくて

当時、航空会社に勤めていた父の仕事の関係で幼少期から転勤族だった私。思い返せばいつもダンボールに荷物を詰め、家族で旅立っていた子供時代でした。

広島県、福岡県、神奈川県、そして大阪府と、幼稚園から小学校にかけて5回も転校し、今、当手を思い出そうとしても、どの思い出がどの町の出来事だったのか、記憶がごちゃ混ぜになってしまったことは悔やまれますが、どの地もほんのりとあたたかい印象が残っています。

先日ふと思い浮かぶ校歌を

歌ってみましたら、唇からこぼれる二つの歌

♪白雲なびく六甲の…

これは宝塚音楽学校の校歌。

♪至誠こそはわが命…

じゃあこれは？と、便利なSNSで調べてみると豊中の文字。

豊中市立第二中学校の校歌だと分かり思わず笑みがこぼれました。

なぜなら、豊中は繰り返しの転校で内気になっていた私を大きな明るさで変えてくれた、ありがたい出発地だからです。

学校では、常にみんなが大

きな声でワイワイと発言し笑う日々。まるで私は異国にたどり着いてしまったのかと思うほど呆気にとられながらも、その老若男女にみなぎる豊中エナジーに魅入っていました。

「自分なんて呼ばれとるん?!」なんて関西弁にも驚きました。が、おせっかいなくらい親切なクラスメイトに連れられて、気付けば私は人生で初めての、一番明るい子達のグループの一員に仲間入りしていました。そんな学生生活の中で、一番心に残っているのは中学三年生の時の担任の小山先生です。当時、私の家は二中と春

真矢ミキ [女優]

小学6年生から4年間、豊中市で過ごす。元宝塚歌劇団花組トップスター、優れた舞台センスや現代感覚から「宝塚の革命児」と呼ばれ人気を集める。

退団後は女優として活躍。平成27年(2015)から4年半、朝の情報番組「ビビット」のMCを務めた。近年は、ドラマ「下町ロケット」「さくらの親子丼」「スパイラル～町工場の奇跡」「居酒屋兆治」、映画「Dinerダイナー」、舞台「正しいオトナたち」「ドラマティック 古事記」など。現在「アンサンブル・シンデレラ 病院薬剤師の処方箋」(フジテレビ系木曜22時～)にレギュラー出演中。



photo by ©yOU



日神社の間の坂上にあつたので、朝は学校のチャイムを聞いてから坂の勢いを借りて走ればギリギリセーフなくらいの近さでした。

しかし、朝が苦手だった私はちよいちよい遅刻し、門の前で長い脚をどんと開き、仁王立ちで待ち構えている小山先生と顔を合わせるのがお決まりでした。

月日は流れ平成22年(2010)、そんな誰からも恐れられていた小山先生が闘病生活に入られている事を一つ先輩の俊子ちゃんから聞きました。私は東京から豊中にある空港に降り立ち、先生が入院されている病院を幾度か訪れました。

病床でも、こんな本を読みなさい、こんな人でありなさい…など最期まで先生は教師として私たちを導いてくれました。

病院からの帰り道、先生や奥さん、俊子ちゃんの関西弁の心地良さと、胸からあふれ

出る懐かしい思い出を抱きしめながら、私は阪急電車に揺られていました。部活の声はやけに大人に思えた阪大の広いグラウンド…友達のお家があつた刀根山…毎回母に入りたいとねだつた千里セルシーのバルーン…屋台が長く続く春日神社の縁日のにぎわい…豊中での思い出はいつだって私の人生をあたたく彩ってくれました。

そして、この阪急電車の中で乗り合わせた宝塚音楽学校

の制服に憧れ私は受験し、その後20年間の宝塚生活に入り今があるのです。

宝塚の退団を決めた日も私は阪急電車に揺られ豊中を訪れていました。

初心忘るべからずと心に刻むように。

時代は変われども、いつも私を原点に戻らせてくれる町。私にとって豊中は、まさに、あたたかい人達の中で人生を教えてもらった豊かな町なのです。

Favorite photo



Comment:

真矢ミキさん卒業当時の第二中学校の様子